

第8章 河道特性

手取川流域における河道特性は以下の通りである。

(1) 手取川上流域

上流域は、手取川ダムから上流部にあたり、最上流部は中部日本を縦断する山岳地帯の西縁加賀、美濃山地の端にあたり白山を中心とした急峻な地形となっている。また、山地崩壊が著しいため、その対策として数多くの砂防堰堤が設置されている。

河床勾配は手取川ダム～市ノ瀬砂防堰堤間までは約1/680であるが最上流部では約1/3と急勾配となり、山地崩壊地形であるため、河床材料は堆積土砂や岩・礫となっている。



上流域（別当谷、甚之助谷）

(2) 手取川中流域

中流域は、手取川ダムから白山合口堰堤までの区間にあたり、河口23km付近から31km付近まで河岸段丘が発達している。また、峡谷状となっているため川幅は狭い。

河床勾配は約1/160であり、淵が発達しており、河床材料は岩・礫が主体となっている。

白山合口堰堤から手取川下流域となるが、ここで取水が行われるため、大きく流況が変化するところでもある。



中流域（白山合口堰堤付近）

支川尾添川流域

尾添川流域は加賀山地、白山山系に属しており、山容が険しく山地崩壊地形であるため、その対策としての砂防ダムが設置されている。

河床勾配は1/50～1/150であり、淵が主体となっており、河床材料は礫・岩となっている。

支川大日川流域

大日川流域の大部分は能美山地であり、手取川流域の東側に位置する加賀山地に比べ山容は緩やかとなっている。

河床勾配は1/80～1/150であり、小規模な瀬・淵が見られ、河床材料は礫・岩となっている。

(3) 手取川下流域

下流域は、河口から17.3km上流の白山合口堰堤までの直轄管理区間にあたり、典型的な扇状地を形成し、河口部には加賀平野が広がっている。

この区間の川幅は最大400m前後に達する。

平均河床勾配は約1/165程度であり、瀬・淵が発達し、河床材料は礫が主となっている。また、河口部では礫に混じり、砂も見られる。



辰口橋付近

(6.0k地点から上流を望む)

(4) 手取川感潮域

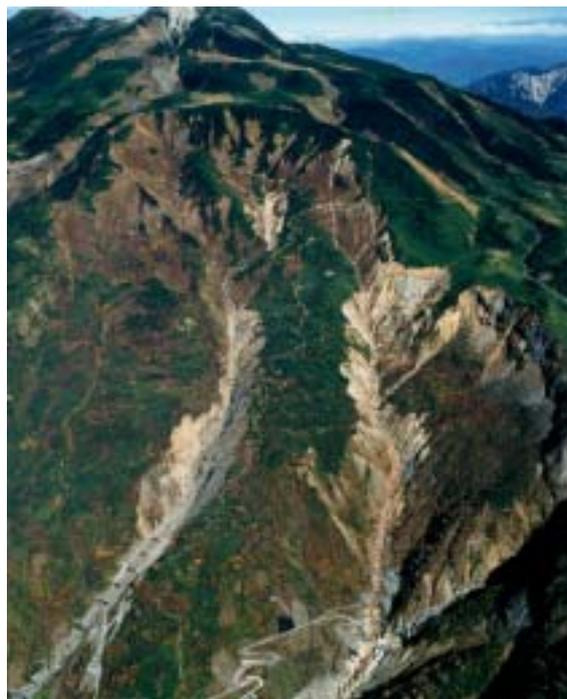
手取川河口より約1.0kmの区間は感潮区間となり、河口部では冬季波浪の影響があり砂州が発達することによって河口閉塞が生じており、今後の課題となっている。



北陸自動車道

手取川河口

上流部 白山砂防
(牛首川上流部：別当谷、柳谷、甚之助谷)



上流部 手取川ダム
(手取川ダム湖と白山)



大日川ダム



中流部
河内村(右岸)鳥越村(左岸)付近
(河成段丘部)



下流部 白山合口堰堤下流
(扇頂部：河床に露岩)

下流部 川北大橋下流付近
(扇状地部：霞堤、澇筋の変化が激しい)



下流部 手取川河口周辺
(感潮区間)

下流部 手取川扇状地状況
(河口部から白山を望む)

